

# 子どもたちの学びが変わります

～子どもたちに「生きる力」を育むために～

長野県教育委員会

保護者の皆さまへ

今の子どもたちが大人になるころの社会では、少子高齢化やグローバル化、情報化が一層進み、答えがないような課題に直面することも考えられます。そのような中でもよりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していけるようにするために、2020年度から新しい学習指導要領に移行し、学校教育が変わります。これからの時代を子どもたちが豊かに生き抜いていくためにも、子どもたちに「生きる力」を育てていきます。

子どもたちに「生きる力」を育むために

## 授業はこう変わります

例えば、グループで話し合うような活動が、より多く取り入れられます。



子どもたちに「生きる力」を育むために

## 家庭学習はこう変わります

例えば、作業的に繰り返しをするようなものから、各自の課題に合わせて自分で計画して取り組むようになります。



子どもたちに「生きる力」を育むために

## テストはこう変わります

例えば、算数・数学のテストでは、答えだけを書く問題から、答えの求め方や考え方も書くような問題が出るようになります。

### 小学校の例

次の円の円周の長さを求めましょう。

- (1) 半径 5 cm
- (2) 半径 10cm
- :

Before

答えだけを書く問題

(前略) 横の長さが 7m の黒板の、はしからはしまで輪かざりをつけるためには、折り紙の枚数が 100 枚あれば足ります。

そうたさんは、そのわけを、次のように説明しようとしています。

【そうたさんの説明】

(そうたさんの説明 略)

式や言葉で理由を書く問題

【そうたさんの説明】に続くように、折り紙の枚数が 100 枚あれば足りるわけを、式や言葉を使って書きましょう。

(長野県の正答率：41.7%、全国の正答率：43.2%)

(平成 30 年度全国学力・学習状況調査算数 B[5]より)

全国学力・学習状況調査の問題はこちら→



After

## 疑問にお答えします！

Q どのような授業が求められているの？

A 子どもたちが立てた問いを、友だちとかかわりながら、子どもたち自身の力で解決していくような授業です。



Q なぜ、グループ学習を多く取り入れるの？



A 自分の考えを伝えるとともに、友だちのいろいろな考え方を比較・検討しながら、自分の考え方を広め、深めていくためです。

Q なぜ、家庭学習をするの？



A 学力を高めるためです。学校の授業の復習をしている子どもたちは、家庭環境にかかわらず学力が高い傾向にあることが、研究で明らかになっています。



研究について

Q 家庭学習で何をすればいいの？

A 授業の内容を中心に、自分の苦手なところなどを、計画を立てて取り組むとよいでしょう。総合教育センターの「学びの広場」も参考にしてください。



学びの広場

Q テストで計算問題が出なくなるの？



A 計算問題はなくなりませんが、答えだけを書く問題から、途中の式や考え方などを問う問題が増えていきます。

Q 高校入試も変わるの？

A 長野県立高校の入試問題でも、記述式の問題が増えています。また、大学入試も大きく変わります。



長野県の ↑  
高校入試問題



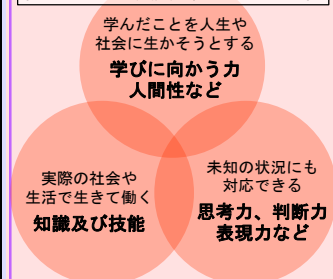
↑  
大学入試改革  
←

➡ 授業や家庭学習、テストについては、各学校によって内容等が異なります。ご不明なことについては、学校や県・市町村教育委員会へお問い合わせください。

次のような観点で、授業やお子様の取組をご覧ください。

- 授業の話合い活動では、**自分の考えを述べたり、友だちの考えを聞いたり**している。
- 家庭学習では、**自分で計画を立てて自分の力を高めるような内容の学習**をしている。
- テストでは、問題の解き方や説明を書く記述問題で、**自分の考えを自分の言葉で**書いている。
- 公式や用語を暗記するだけでなく、**公式の中の数字の意味や用語の内容まで**理解しようとしている。
- 保護者として子どもが頑張っていて学習に取り組んでいる姿を認め、**積極的に褒めて**いる。

育成を目指す資質・能力の三つの柱



新しい学習指導要領については、文部科学省のWebページもご覧ください。



学習指導要領について

# 主体的・対話的で深い学びの 実現に向けた授業改善に取り組みましょう

～子どもたちに「生きる力」を育むために～

長野県教育委員会

子どもたちに「生きる力」を育むには、未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することが求められます。そのために、教師が一方向的に知識を与える授業ではなく、子どもが自ら問いを立て追究し問題解決をしていく授業づくりをする必要があります。授業づくりには評価や家庭学習もつながっています。授業づくりと合わせて評価を変えたり、家庭学習を充実させたりしていきましょう。

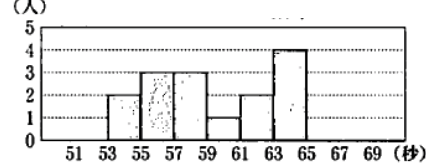


評価

## 思考を評価する問題への転換

Before

次のヒストグラムで平均値を求めなさい。



〈中学校 数学 1年「資料の活用」〉

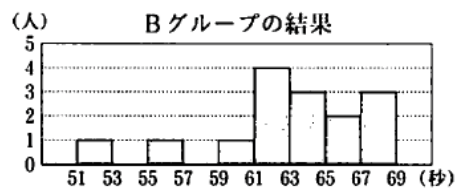
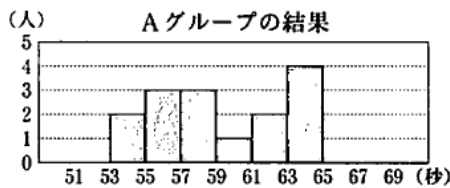
※新学習指導要領では「データの活用」

授業においては

代表値に度数をかけて合計を出し、人数で割って平均値を出す技能が求められました。

After

(2) 15人ずつのA, B, 2つのグループがある。1人ずつ目を閉じてストップウォッチをスタートさせ、60秒になったと思ったところで止めて、そのときの時間を記録した。次のヒストグラムは2つのグループの結果をまとめたものである。



① 2つのグループの結果を比較するために、ヒストグラムから平均値を求め、それを用いて調べようと考えた。このときの平均値の求め方を説明しなさい。ただし、**階級値**、**度数**のことばを用いること。**実際に平均値を求めなくてよい。**

平成 26 年度 長野県公立高等学校後期選抜学力検査問題 (数学)

正答例 各階級で階級値と度数の積を求め、それらの合計を資料の個数で割る。

授業においては

目的をもち、主体的に追究できるようにするため、例えば、2つのグループの結果を比較するという場面設定をすることや、正しく平均値を計算するだけでなく、平均値やヒストグラムなどについての意味理解を確かにしたたり、平均値の求め方を数学的な表現を使って説明したりする場を設定することが大切になります。

## 質の高い学びを実現する授業改善の推進

### ○授業のまとめから授業を変える

本時でねらう資質・能力に合わせてまとめを考え、そのまとめにつながる追究になるように学習課題（問題）を設定したり、学習活動を仕組んだりしましょう。

### ○子どもの声で授業をつくる

教師が持っている知識を一方向的に伝える授業ではなく、子どもが自分の疑問から追究し、知識を獲得していく授業づくりをしましょう。例えば、グループに分かれ一人一人が自分の考えを表現できる場を設定するなどが考えられます。そこでの子どもの声を予想し、子どもの視点で授業を構想しましょう。



## 自律的に取り組む家庭学習の充実

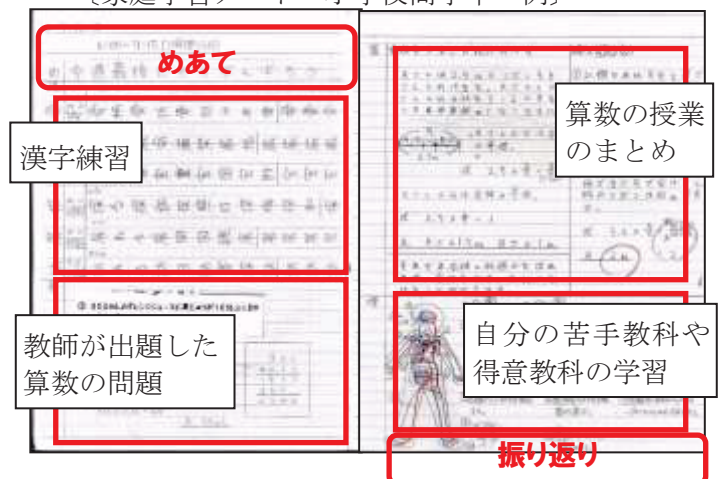
### ○家庭学習ノートの工夫

子ども自身が自分の苦手なところを克服できるように、家庭学習ノートに、自分の苦手とする問題を選んで取り組めるようにします。教師は子どもたちの支援者になって、問題の選び方や学び方などを助言します。

### ○家庭学習の問題の工夫

家庭学習を資質・能力別に作成したり、基礎的・基本的な問題、全員が取り組む問題、発展的な問題など習熟の程度に合わせた問題を用意したりするなど、個に合わせた工夫をしましょう。

〔家庭学習ノート 小学校高学年 例〕



長野県教育委員会では次のような支援を行います。

○各教育事務所では、授業づくりの段階から複数回にわたり訪問させていただき単元訪問、学校の課題に応じて担当指導主事がかかわらせていただくゾーン訪問を実施して授業改善を先生方と共に進めていきます。

○長野県総合教育センターHPには、算数・数学では小单元ごとの評価問題となるレビュー問題、レビュー活用問題を準備しています。特にレビュー活用問題は、基礎的・基本的な知識・技能を活用して取り組む問題となっています。授業とつながる家庭学習としてもご活用ください。

# カリキュラム・マネジメントが機能する学校を実現しましょう

～子どもたちに「生きる力」を育むために～

長野県教育委員会

長野県ではこれまで、日々の教育活動の中で子どもを中心とした素晴らしい実践が行われてきました。その一部は、教育課程研究協議会をはじめとする様々な研究会、研修会等で、報告されてきたものの、県全体の財産として十分に共有されてきたとは言えません。少子化が進行するこれからの時代、学校内における教員の年齢構成も不均衡が生じ、若手の教員への指導技術の伝承が難しくなってくることも予想されます。教師個々の匠の技も含めて共有し、専門職として学び合う教師集団となることが重要です。

また、これまでの全国学力・学習状況調査からは、長野県の小中学校において補充的な学習や発展的な学習の実施状況、総合的な学習の時間における探究の過程を意識した取組に課題がみられます。学校全体で自校の取組を評価・改善し教育活動の質を向上させる必要があります。

学習指導要領の改訂の主旨を理解し、

どの子どもにも資質・能力を育む学校づくりを目指しましょう。

〈改訂の主旨〉・未来社会を切り拓くための資質・能力を一層充実する。

- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善を推進する。
- ・各学校においてカリキュラム・マネジメントを確立し教育活動の質を向上させる。

## 子どもの実態を基にしたPDCAサイクルの確立

学校として、補充的な学習や発展的な学習の組織的な取組は計画されていますか？

OA校では、学年会で、全国学力・学習状況調査のS-P表に基づき子どもの苦手とする領域や、個々の実態を把握して、学年全体で視覚支援を行って授業をしたり、既習を想起する場面を取り入れたり、単元末に補充的な学習の時間を確保したりしています。



〔S-P表の分析から取組を見直す先生方〕

OB校では、S-P表で明らかになった子どもが理解しにくい学習場面について、指導書や年間指導計画に付箋等を貼るなどして、来年度に学習する下の学年に指導の仕方を工夫するように申し送りをしています。

## 探究的な学びの実現

探究的な学びや探究的な学びのサイクルについて全職員で共有していますか？

- C校では、総合的な学習の時間において、計画されている活動をそのまま実施するのではなく、学習対象との出会わせ方を工夫し、肌で感じたことの中から子どもが問いを問いだし、試行錯誤しながら問いの解決に向けて取り組んでいけるようにしています。
- D校では総合的な学習の時間において身に付けた、比較する、分類する、関連付けるなどの見方・考え方を教科の時間に生かすことができるように、年間指導計画を再構成しています。

## 「チーム学校」での取組

同僚性を構築したり、実践的な教員研修を取り入れたりして、学校全体で授業力の向上に取り組んでいますか？

- E校では模擬授業を基に授業のあり方を話し合ったり、日々の授業の板書の写真を持ち寄って授業の工夫について学び合ったりしています。
- F校では授業研究会の際、先生方がもっている課題を基にしたグループ別に協議します。また、公開された授業を基に、自分の取組や工夫について話し合い、取組のよさや課題解決に向けた取組を共有しています。

長野県教育委員会では次のような支援を行います。

- 全国学力・学習状況調査のS-P表や各学校で取り組んでいる各種学力調査等の分析、その分析を基にしたPDCAサイクルづくりについての支援にむけてゾーン訪問を充実させていきます。

- 「信州型ユニバーサルデザイン」は長野県の先生方の経験に基づく知恵と科学的に実証された効果的な指導方法を組み合わせ、全ての子どもが自分らしく学ぶことのできる授業づくり、学級づくりの基盤となる内容を先生方と共に創り上げていくものです。よりよい授業づくりのため、研修に活用していきます。

